

県立高校入試改善検討委員会（第5回） 会議録

- 日 時：令和4年8月24日（水）14時00分～16時00分
- 場 所：岩手県民会館会議室
- 出席者：佐々木修一 委員、浅沼道成 副委員長、鎌田英樹 委員、
小山田紳也 委員、菅野祐太 委員、高橋正浩 委員、
佐野理 委員、岩館智子 委員、大柏良 委員（代理出席：佐藤尚 氏）、
八重樫千晶 委員、村上智加子 委員（代理出席：柳田陽一 氏）、
多田英史 委員（代理出席：侘美淳 氏）、山田市雄 委員
県教育委員会教育長 佐藤 博
県教育委員会事務局学校教育室 学校教育企画監 度會 友哉
首席指導主事兼義務教育課長 三浦 隆
首席指導主事兼高校教育課長 中村 智和
主任指導主事 菊地 健、砂沢 剛
指導主事 菊池 敏、小原 博
- 傍聴者：報道8人
- 会議の概要
- 1 開会（砂沢 主任指導主事）

2 県教育委員会あいさつ（佐藤 教育長）

本委員会は、入試制度を取り巻く環境の変化に対応した新しい入試制度のあり方について議論する場であり、昨年度からこれまでの4回の会議では、委員の皆様から様々な知見に基づくご意見をいただきながら、検討が進められてきた。

本日の会議での検討をもとにまとめられた提言を、9月に県教育委員会に提出いただくこととしており、県教育委員会としては、いただいた提言をもとに、入試制度の改善について速やかに検討し、令和7年度入試から新制度で行いたいと考えている。

活発な意見交換をお願いしたい。

3 入試改善検討委員会委員長あいさつ（佐々木 委員長）

本日は提言に向けて、事実上最後の協議になると思う。限られた時間ではあるが、忌憚のない意見をお願いしたい。

4 議題（進行は、佐々木委員長）

（1）提言の方向性について

〔中村 高校教育課長〕

【資料1「Ⅰ 県立高校入試改善の現状と課題、検討の視点等」、「Ⅱ 県立高校入試改善の論点と方向性」に基づき説明】

〔菅野 委員〕

今回の提言の方向性では3月に2日連続で実施することとなっているが、人口減少

対策に向き合っていくためには、県外受入れの選抜を早い時期に実施する必要があると考える。

【佐々木 委員長】

今の意見は、次の（２）の提言についての中身となるので、（２）の資料説明後に扱いたい。

（２）提言について

【菊地 主任指導主事】

【資料２「令和７年度以降の県立高校入試の改善について（提言案）」及び資料３「令和７年度以降の県立高校入試の改善について（概要）」に基づき説明】

【菅野 委員】

県内の高校へ見学に来た県外の中学生から、３月にならないと合否が判明しないことについて不安の声を聞いている。提言案 11 ページの「５その他」の内容が、どの程度新制度に反映されるか心配している。

【鎌田 委員】

県外からの受検には賛成であるが、中学や高校の教育現場の負担軽減も考えて、３月１回に受検の機会をまとめる方向で議論を進めてきた。県外受入れで受検する生徒を軽んじるわけではないが、県内の１万人程の中学生の負担が増えたり、合否に影響を与える可能性があることを考えると、県外受入れの選抜時期を早めることには疑問を感じる。３月に１回の受検を前提として、県外受入れの対応を検討するべきと考える。

【佐々木 委員長】

この件について、他の委員から意見はないか。

生徒、先生方の負担軽減等を考えると、３月に１回の実施という案でまとめてよろしいか。

【菅野 委員】

負担軽減のためという趣旨には賛同している。何かしらの方法で県外中学生への配慮を検討していただきたい。大きな方向性としては案のとおりで構わない。

【佐々木 委員長】

県外からの受検者に何らかの配慮をとということであるが、方法について具体的に何か考えはあるか。

【菅野 委員】

市町村からの推薦による選抜を提案する。市町村からの推薦を踏まえて合否を決めていくということはどうか。

【山田 委員】

３月１回の実施とすることについて、教職員の負担軽減になることは理解したが、受検生にとってどのような影響があるのか確認したい。

【中村 高校教育課長】

参考資料２の上部が、２日連続で実施する場合についてまとめたものである。メリ

ットとして、特色選抜の志願者が時間をかけて志願先を検討できること。1日目、2日目ともゆとりある時程で実施ができること。中学、高校共に落ち着いて授業をできる日数が増えること。また、教員の負担軽減となることを示している。

デメリットについては資料のとおりである。

[菊地 主任指導主事]

提言案10ページの「4入試日程について」で、「入試期間を短縮し、生徒がより時間をかけて志願先高校について検討できるように」としている。

特色選抜で中学校長の推薦が不要となる場合、志願者が増えると思われるが、志願者が、特色選抜の志願先高校を検討する時間を十分に確保できると考えている。

[山田 委員]

高校からの意見も伺いたい。3月に1回の実施とした場合、私立高校の入試がすべて終わっていることになるが、そのような中で各高校の活性化につながる人材が確保できるのか。

[高橋 委員]

今回2日間連続での実施を検討しているが、高校では好意的に受け取っている。推薦の志願者がなく実施できていない学校もあるが、そのような学校の志願者の増加も見込めるのではないか。

[浅沼 委員]

負担軽減や志願先の検討時間の確保という理由に賛同できる反面、根本的な戦略について、実施の時期を3月まで先送りすることで、学校が求める生徒を確保できなくなる可能性があるのではないか。

また、学校の特色がよくわからない。県外受入れも同じだが、県外の生徒に岩手の県立高校を受検してもらうための戦略はあるのか。

[中村 高校教育課長]

前回までの委員会で資料を示したが、推薦で不合格となった受検生の約9割が、一般入試で同じ高校を受検している状況であることから、私立高校を志望する生徒が大きく増えることはないと考えている。

今後は、各高校がスクール・ポリシーを明示することで、学校の魅力を伝えていきたい。

[佐野 委員]

公立高校を志願する生徒には、推薦で不合格であったとしても、再度一般で受検することを勧めている。公立、私立のどちらを受検するかはだいたい1月で決定する。

今までの校長推薦の場合、中学校内の推薦委員会を経て、年内に志望校を決定してきた。中学生の主体性を培う上で、高校の特色を踏まえて、生徒がじっくりと自分で考えて高校を選べることは、中学校としては非常にありがたい。

2日間連続の日程とした場合、ほとんどの生徒が両方の選抜に出願すると考えられる。このことが、高校の負担になるのであれば一考を要するが、中学校としては非常にありがたい。

[佐々木 委員長]

受検生が入りたい高校の特色等を研究する時間を、十分に確保できるという魅力が

あるというご発言でした。

〔小山田 委員〕

この特色選抜を有効に使うためには、3月1回の実施がよいと考える。

この前提で確認したいことは、今まで推薦で不合格となった生徒は、一般で同じ高校を受ける生徒が多かったようだが、3月1回の実施とした場合、特色で不合格となった生徒は一般を受検することはできるのか。

〔中村 高校教育課長〕

両方に出願することは可能である。入試日程は、初日に学力検査、2日目に面接など特色選抜に関わる試験という順番を想定している。

選抜の順序については、特色選抜を先に行い、そこで不合格になった受検生については、その後の一般選抜の対象とすることを想定している。

〔小山田 委員〕

そこで混乱がなければいいと考える。

〔佐々木 委員長〕

入試の日程について委員からご意見をいただき、事務局の考えもお話いただいた。入試の日程について、3月1回の実施とする提言案に賛成する意見が多いと感じた。

この件について、もう少しご意見をいただきたい。

〔佐野 委員〕

これまでは推薦基準が志望校を決める材料となっていたが、特色選抜ではどのようなになるのか。

〔中村 高校教育課長〕

提言案の10ページで、「グランドデザインに基づいて各高校が求める生徒像を示し、各高校がそれぞれ独自の観点による多様な選抜を実施する」と示している。評価の対象は、推薦入試では部活動で身につけた資質・能力が中心であったが、今般、生徒の学びや経験が非常に多岐に渡っており、校外でのボランティア活動や地域課題に取り組んでいる生徒もいる。これまでの面接では、志望動機の確認等が中心であったが、生徒が様々な経験から学んだこと等を評価するといった方法を想定している。

〔佐々木 委員長〕

入試日程については、提言案のとおりとしたい。

提言案の9～11ページに、令和7年度以降の県立高校入試に向けた改善の具体的な方向性等と具体的な改善のポイントが記載されている。入試日程以外で、ご意見等はあるか。

〔侘美 氏（多田委員の代理出席者）〕

部活動が地域移行などにより、部活動以外の多様な活動が評価の対象になると考えられるが、経済的な理由等で生徒間に格差が生じないように配慮をお願いしたい。

〔佐々木 委員長〕

この委員会でまとめた提言だけでは、世の中の変化に対応できないのではないかという意見である。

新しい制度に移行したのちに、改善を検討する場を設けることを、今の時点で考えているか。

[中村 高校教育課長]

今の段階ではっきりとしたことは言えないが、社会が急激に変化していることから、必要に応じて入試制度を改善することを随時検討するべきであると考えている。

[佐々木 委員長]

ある程度柔軟に対応していくということか。

[中村 高校教育課長]

そのとおりである。

[山田 委員]

侘美氏が述べたことに関係する情報を提供する。気仙管内の中学校ではすでに部活動のあり方が変化している。気仙地区の中学校では、完全に地域移行としている学校もある。この流れは今後加速すると考えられるため、このことに対応した入試改善になることを望む。

[八重樫 委員]

中学校の部活動の任意化が進んでおり、地域移行が休日だけではなく平日にも及べば、受入れや環境整備に地域差が生じると考えられる。特色選抜は、このような状況を踏まえて、公平性を担保することを考えていただきたい。

もう一つは、独自の観点による多様な選抜により、学校の裁量が広がることは高校にとって好ましいことだが、志願者が少ないことが高校の責任とならないように、県教育委員会として配慮してほしい。県立高校の先生方は、地域と一緒に頑張っているので、数字だけに囚われないように、県教育委員会の説明が必要ではないか。

定時制高校について、いわゆる高校を中退したような方々に対しての門戸を広げていく必要もある。生涯学習という観点からも、定時制高校における評価尺度の多元化については、今後も対応していただきたい。

二次募集については、欠員が10%より多い高校については、できれば必ず実施するように県教育委員会としてはたらきかけていただきたい。

特別な支援についても、県教委として今後さらに充実をお願いしたい。

[佐々木 委員長]

定時制高校において、中学校を卒業して年数が経っている方の選抜ですが、選抜方法は現状でどうなっているか。

[中村 高校教育課長]

平成23年度の提言に基づいて、定時制課程では、成人枠という入試枠を設けており、面接と作文による、学力検査を課さない選抜を行っているところである。

[佐々木 委員長]

八重樫委員からご指摘いただいたことは、今回の提言には盛り込まれていないが、方針としては、このまま継続されるということか。

[中村 高校教育課長]

このまま継続することを考えている。

[高橋 委員]

定時制成人枠について、入試制度自体には全く異論はないが、出願する方は多種多様であり、中には定時制の授業を受けることが難しいという方もいる。このことも踏

まえた対応をお願いしたい。

[佐々木 委員長]

受検者が多様化しており、校長先生方もお悩みのことと思う。個別に柔軟に対応するために、事務局に相談していただければと思う。

[浅沼 委員]

今回の改革は、各学校の特色がキーワードで、各学校にかなりの権限が移譲していくと捉えている。一番気になるのが、入試の選考基準がわかりづらいことである。各学校が基準を作るのであれば、各学校の特色を明確に提示する必要がある。選考基準について県としてある程度の枠組みを示さないと各学校の負担が大きくなると感じた。今回の改善で分かりやすく、皆さんが納得できるような基準が示されることを期待する。

[佐々木 委員長]

各高校の特色を説明する資料等が作られると思うが、中学生に最初に提示するのはいつ頃になるのか。

[中村 高校教育課長]

10月末になる。

補足であるが、学校の負担が大きくなるという指摘について、現在の推薦入試では、県教育委員会で大きな枠組みを提示した上で、推薦基準を考えるというようになっている。各学校に大きな負担がかからないように、各学校としっかり情報共有しながら進めていきたい。

[岩館 委員]

中3の受検生の親という立場でお話しをさせていただきたい。

提言案の「生徒や保護者が、各校の魅力や特色ある入試の特徴を十分に理解した上で」、「誰からもわかりやすい制度」というところについてである。夏休み中に、息子がいくつかの学校に実際に足を運び、見学させていただいた。中学校で作成した高校の特色が書かれた資料をもらい、それを親子で見せていただいた。ただ、資料だけだとイメージだけで選んでしまうということがある。高校が求める生徒に受検してほしいということだが、親としては、魅力をしっかりと理解した上で、子供たちが行きたい高校を選ぶことができることを願っている。

[中村 高校教育課長]

高校魅力化は、菅野委員にもご協力いただきながら取り組んでいるところ。各学校の魅力をnoteで発信する取組を始めたばかりではあるが、以前に比べて学校の情報をわかりやすく公開しているので、ぜひご覧いただきたい。

[佐々木 委員長]

以上で議題を終了する。

大きな修正はないので、提言は事務局が準備した案のとおりとする。後日、事務局が修正したものを送付し、各委員に確認していただくこととする。

進行を事務局にお返しする。

5 その他

[菊地 主任指導主事]

【資料4「今後の予定について」に基づき説明】

[菅野 委員]

先ほどの佐美氏の発言に関わり、令和7年度に1度、入試制度の評価を行う会議を開催することを提案する。

[中村 高校教育課長]

各学校の実施状況等について、初年度の確認が必要であると考えている。ご意見として承りたい。

[度會 学校教育企画監]

本委員会は、入試制度を取り巻く環境の変化に対応した新しい入試制度のあり方について議論する場として、多くのご議論、ご意見をいただき、議論を活発に行うことができた。

特に県外生の受入れの議論を切り口に、入試制度のあり方や入試日程について様々なご意見をいただいた。県教育委員会としても、今年度から高校の魅力化の事業を全県展開している。本県の人口減少の実態、生徒の資質・能力の育成や成長のことを考え、今後、他県の取り組み等を魅力化の参考にしていきたい。

これまでの議論を踏まえ、9月にいただく提言をもとに、負担の軽減や入試の公平性等の配慮事項も含め、新しい入試制度について速やかに検討を進めて参りたい。

6 閉会（砂沢 主任指導主事）